第 39 期（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）
事 業 報 告 書

第 39 期、2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）は、基調事業としての奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 22 号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行いたしました。

財団の財政収支面では、基本財産等の運用においては、4,718 万円の運用収益を確保し経常収益合計では 4,718 万円となりました。経常費用は事業費△3,756 万円、管理費△1,600 万円の合計△5,356 万円となり経常収支は△638 万円となりました。

基本財産を形成している債券等の価額は時価評価額の減少となりましたが、株式の時価評価額の増加により前期末比 9,915 万円増加となり、今期末の基本財産額は 22 億 3,272 万円となりました。

［Ⅰ］ 今期の事業の概要

ａ．助成事業

今年度の助成事業は 2025 年度事業計画に定められた奨学金助成を含む 26 案件に助成を実施し、助成実績総額は、2,914 万円となりました。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

1）学術研究助成

・今期は応募なし

2）奨学金助成

1　当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成　（1,812 万円）

2025 年度も指定 21 大学の中から、奨学生の出身国がなるべく重複しないよう、より多くの国籍出身者から 11 名を選考し 2024 年度からの継続学生 7 名を加えて 18 名に奨学金を支給した。

1）2025 年度からの奨学生　（新規）　11 名

①	横浜国立大学	経済学部	学部生（韓国）
②	東北大学	理学研究科	院生（ドイツ）
③	東北大学	情報科学研究科	院生（モンゴル）
④	国際大学	国際関係学研究科	院生（ベトナム）
⑤	早稲田大学	アジア太平洋研究科	院生（中国・内モンゴル）
⑥	京都大学	工学研究科	院生（台湾）
⑦	大阪大学	言語文化研究科	院生（インドネシア）
⑧	大阪大学	言語文化研究科	院生（香港）
⑨	広島大学	人間社会科学研究科	院生（ウズベキスタン）
⑩	九州大学	工学府	院生（カナダ）
⑪	九州大学	生物資源環境科学府	院生（台湾）

2）2024 年度からの継続　7 名

①	北海道大学	公共政策学	院生（モンゴル）
②	千葉大学	園芸研究科	院生（中国・内モンゴル）
③	神戸大学	国際協力研究科	院生（韓国）

④	岡山大学	環境生命自然科学	院生（インドネシア）
⑤	岡山大学	グローバル・ディスカバリー	学部生（ベトナム）
⑥	立命館ｱｼﾞｱ太平洋大学	国際経営学	学部生（ネパール）
⑦	立命館ｱｼﾞｱ太平洋大学	国際経営学	学部生（インドネシア）

3）国際交流助成　（1,102 万円）

＜国際会議等＞

2「第 77 回 日米学生会議」　（40 万円）

4 月の春合宿に始まり、防衛大学での「安全保障研修」、現地学生との交流を通じた「フィリピン自主研修」の日本側メンバーでの事前活動を経て、8 月の本会議は京都、大阪、熊本、東京で実施された。本年度は「尊厳を守る～敬意ある対話が紡ぐ日米の調和」という総合テーマの下、日米関係と台湾有事をテーマに掲げた外交安全保障プログラム、経済安全保障政策等につき議論を交わした。

開催時期： 2025 年 8 月 1 日～21 日 （本会議）

開催地： 京都、大阪、熊本、東京

参加人員： 日本 34 名、米国 36 名 計 70 名

3「第 44 期 日中学生会議」　（40 万円）

44 期では日本、中国の両国開催を実施した。今期のテーマは「対話から知り、明日に伝える。戦後 100 年の日中関係へ」であり約 3 週間にわたり中国、日本を移動しながら本会議を行った。

分科会のテーマは平和、アイデンティティ、教育、メディア、食文化、ジェンダーの６つで、日中の学生で議論を行いつつ、歴史認識に関する対話や文化交流、公的機関訪問等を行った。

開催時期： 2025 年 8 月 4 日～25 日

開催地： 中国（北京・天津）、長崎、東京

参加人員： 日本 30 名、中国 30 名 計 60 名

4「2025 年度 日中青年会議」　（35 万円）

2009 年創設。本年度のテーマは「Change and Continuity」であり、現代社会の理解、過去から未来へのつながり、持続可能な解決策を目的として作成。本会議では、歴史、カルチャー、ピースビルディング、OC トークの 4 つのテーマにつき議論を行った。

開催時期： 2025 年 7 月 25 日～31 日

開催地： 香港

参加人員： 日本 18 名、中国 16 名、香港 6 名、台湾 7 名 計 47 名

5「第 41 回 日韓学生フォーラム」　（40 万円）

1986 年発足。日韓関係からグローバルな社会問題まで幅広い関心層の学生が一堂に会し、直接会話で学術討論・国際交流を行った。また、”Designers of tomorrow :Building bridges today”のスローガンのもと、日韓間で長年抱えている問題を意見交換し、相互理解を深め、未来志向の日韓関係構築を目指した。フィールドトリップは広島平和記念資料館や国会議事堂、在日韓人歴史資料館を訪問した。

開催時期： 2025 年 8 月 6 日～15 日

開催地： 広島、東京

参加人員： 日本 17 名、 韓国 16 名 計 33 名

6「第 29 期 日本インド学生会議」 (50 万円)

1996 年設立。全く異なる背景・文化で育った日本とインドの学生が相互理解を実現し、一般社会へ還元していくことを目標に毎年行われている。今回は日本の学生がインドを訪問し「いのちを紡ぐ未来～文化と共生の新たな地平」をテーマにインドのコルカタ、チェンナイ、デリーを訪問した。生命の尊厳、持続可能性、文化的共生を日印双方の観点から議論した。

開催時期： 2025 年 8 月 6 日～8 月 27 日

開催地： コルカタ、チェンナイ、デリー(インド)

参加人員： 日本 11 名、インド 19 名 計 30 名

7「日英学生会議」 (40 万円)

2016 年創立。学生たちが幅広い視野を持って日英間の国際交流の発展に貢献することを目的とし、日英に共通する社会的・政治的課題に焦点を当て議論する会議で、本年度のテーマは現代社会における分断の克服で、大学の教授の講義を受けながら現代社会の分断について理解を深めると同時にその対応策につき討議を行った。また文化交流やフィールドトリップですみだ北斎美術館を訪問した。

開催時期： 2025 年 8 月 24 日～ 9 月 1 日

開催地： 東京

参加人員： 日本 17 名、英国 16 名 計 33 名

8「日仏学生フォーラム 2025 年度夏季渡仏プログラム」 (30 万円)

日仏の架け橋となる人材育成を目的に 2001 年日仏会館により設立。2018 年から独立し、学生が自主的に活動中。日仏両学生が毎年交互に会議のホストを行う。今回のテーマは「共創」（サブテーマ：政治・国際関係、科学・技術、社会・教育、伝統・現代文化）で日本開催。東京都内及び近郊各地、長野を訪問し、多角的な見学と討議を重ねた。

開催時期： 2025 年 8 月 3 日～20 日

開催地： 東京、長野県飯田市

参加人員： 日本 14 名、フランス 11 名 計 25 名

9「日本ルワンダ学生会議 第 22 回本会議」 (50 万円)

2005 年発足。第 22 回本会議では「復興」をテーマに掲げテーマに関する各所を訪問した。福島第一原子力発電所をはじめとする東日本大震災の被災地訪問や、東京では平和記念展示を見学し戦時中の暮らしや戦後の変化について学んだ。

開催時期： 2025 年 8 月 6 日～18 日

開催地： 東京、福島

参加人員： 日本 16 名、ルワンダ 3 名 計 19 名

10「北東アジア学生ラウンドテーブル 2025」 (30 万円)

2007 年発足の国際教養大学の学生団体。各国学生間の相互理解を達成し、活動の成果を地域社会に発信、維持・拡大することが目的。本開催は日本、モンゴル、韓国、台湾などの大学生（計 67 名）が韓国に集い、今年度は「少子高齢化、AI の技術格差と倫理・規制、気候変動、都市集中と地方都市の衰退」について議論した。またソウル大学と国立民族博物館を訪問した。

開催時期： 2025 年 8 月 10 日～19 日

開催地：　韓国
参加人員：　日本 23 名、韓国 30 名、台湾 8 名、モンゴル 6 名　計 67 名

11「模擬国連会議全米大会 43 代日本代表団派遣事業」　(50 万円)
1983 年設立。毎年ニューヨークで開催される模擬国連会議全米大会に日本から大学生の代表団 9～10 名を送る事業。今年度は日本から 10 名が渡米し、提携校の訪問、国連機関や政府代表部の訪問などの後に、全米大会にて避難民の権利の促進、平和構築資金調達のための提言、核軍縮等昨今の国際情勢を象徴するような問題を討議した。
開催時期：　2026 年 3 月 25 日～4 月 12 日
開催地　：　コネチカット州ニューヘブン・ニューヨーク州ニューヨーク（米国）
参加人員：　日本 10 名、米国提携校 10 名 計 20 名

12「2025 年度日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」　(20 万円)
2003 年に国際基督教大学の学生により設立された。イスラエル、パレスチナでは長引く紛争によってイスラエル人・パレスチナ人の間で交流を持つことが困難になってきているが、日本において両地域の学生に交流の場を設け対話の実現を図ることを目的として活動している。
参加者の相互理解と信頼醸成を目的に福岡・三重・東京で約３週間にわたる共同生活をしながら討議を実施した。長崎原爆資料館を訪問した。
開催時期：　2025 年 8 月 14 日～9 月 4 日
開催地：　福岡、三重、東京
参加人員:　日本 10 名、イスラエル 5 名、パレスチナ５名　計 20 名

＜国際交流＞
13「MPJ Youth 2025 年度アフリカ研修」　(40 万円)
2009 年設立。「アフリカを学び、発信する」を活動理念に、双方向的交流と国際理解を実現し、参加者のアフリカ理解の深化を目指す。13 名の日本人学生が約 2 週間のナミビア研修に参加し、日本の政府機関現地事務所、ナミビア科学技術大などを訪問し文化交流や意見交換を行った。
開催時期：　2026 年 2 月 25 日～3 月 13 日
開催地：　ナミビア
参加人員:　日本 13 名、ナミビア 30 名　計 43 名

14「Global Classmates Summit 2025」　(25 万円)
日本語を学ぶ米国の高校生と英語を学ぶ日本の高校生が、インターネット上で繋がり意見交換し、互いの国や文化への理解を深め、国際的な視野を持つ次世代リーダーを育成する交流プログラム。「日米関係」「異文化理解」「グローバルスキル」「国際関係」などといったテーマについて自らがスピーカーとなり活発な議論を通じて視野を広げ、考えを深めた。
開催時期：　2025 年 7 月 21 日～8 月 2 日
開催地：　ワシントン（米国）
参加人員：　選抜日米生徒 各 7 名 合計 14 名　サミット参加者総数 2,100 名

15「Global Talk　2025-26」　(50 万円)

在日アメリカ大使館の助成対象プログラムとして 2016 年より開始。幅広い層の学生に対し国際人への成長のきっかけを提供することを目的に、アメリカで日本語を学ぶ学生と日本で英語を学ぶ学生をオンラインで結び、様々なトピックについて 30 回のセッションを行った。トピックはジェンダー問題、SDG s 問題、生成 AI について考えるなど。日本の高校生～大学生 100 名、米国 439 名が参加。

交流校訪問プロジェクトも実施し、日本から 4 名の学生がイエール大学、Brown 大学ほか 4 校で対面交流の機会も持てた。

開催時期：　2025 年 8 月 24 日、2025 年 9 月 1 日～2026 年 4 月 17 日

開催地：　オンライン及びイエール大学、Brown 大学ほか 4 校で対面交流

参加人員：　米国参加 12 校 439 名、日本参加者 100 名

16「Hallo Deutschland 2025」　(40 万円)

日独の若者それぞれ 20 名ずつが合宿形式で交流。今年のメインテーマは「乗り越えたその先に～」であり、ドイツと日本の若者が、世界情勢不安、人口減少、気候変動、ヨーロッパでの戦争などについてどのように対処できるか等について議論した。

開催時期：　2025 年 8 月 10 日～8 月 19 日

開催地：　ドレスデン、ベルリン（ドイツ）

参加人員：　日本 20 名、ドイツ 20 名　計 40 名

17「日アジア介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト 5 年目」　(50 万円)

タイ、ミャンマー、インドネシア、マレーシアに出向き、地域の高齢者に適切な介護やリハビリテーションの普及活動を実施する団体。今年度はタイ地域病院で働く看護師 3 名、ボランティア 1 名を招聘し、日本の介護現場訪問及び日本の高齢者に対し運動の指導も行った。

開催時期：　2025 年 12 月 1 日～5 日

開催地：　東京

参加人員：　日本 7 名、タイ 4 名　計 11 名

18「日本とフィリピン青年の交流を通じ、日本文化理解を広めるスタディツアー」　(30 万円)

1998 年設立以来 1 年に 1 回､フィリピン､ネパール､モンゴルなどへのスタディツアーを実施してきた NPO。今年度は当初フィリピンでの開催を計画していたが、ネパールでの開催希望者からの熱心な要望よりネパール開催に変更になった。日本の学生・社会人 6 名、現地学生 150 名が参加し、ネパールの小学校を訪問し口腔ケア教育プログラム・日本式運動会を実施した。又日本語学校を訪問し日本語教育を実施した。

開催時期：　2026 年 3 月 2 日～3 月 8 日

開催地：　ヌワコット村、カトマンズ市（ネパール）

参加人員：　日本 6 名、ネパール 150 名　計 156 名

19「奨学生交流会」　※財団主催事業　(102 万円)

財団の奨学生同士及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。今回は、双日会社説明会、奨学生と理事長・理事との懇談会、夕方は財団役職員及び双日㈱の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会が開催された。

開催時期：　2025 年 9 月 19 日

開催地：　双日㈱本社・都市センターホテル（東京）
参加人員：　奨学生 16 名、 役員他関係者 15 名　計 31 名

＜日本文化紹介＞

20「第 50 回ジャパンウィーク 2025 年英国　マンチェスター」　（40 万円）
伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、ファッション、生活文化等、幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本への理解を深め、市民交流を図り、日本と英国の友好親善及び相互理解に寄与する。舞台公演、展示、実演、ワークショップ、茶道体験などを実施した。日本から 490 人が参加、英国側の参加見学者は約 40 千人だった。
開催時期：　2025 年 9 月 3 日～9 日
開催地：　マンチェスター、ロンドン（英国）
参加人員：　日本側 62 団体　490 名、来場者 40,320 名

21「リボーン～魂のめぐりあい。日本から届ける「平和への願い」　（50 万円）
戦争の記憶が今なお残るヨーロッパ各地を巡回し、亡くなった人々の魂と鎮魂と救い、そして日本からの「平和への願い」を届けることを目的に能公演を実施した。ドイツ、ルーマニアを巡回して公演し、人々の悲しみを癒す力を持つ能楽の魅力をヨーロッパの人々に届けた。東洋と西洋のお互いのアイデンティティを尊重し国際相互理解を深めることができた。
開催時期：　2025 年 6 月 20 日～6 月 30 日
開催地：　ドイツ、ルーマニア
参加人員：　日本 16 名、ドイツ 1,000 名、ルーマニア 1,100 名

＜日本語普及事業＞

22「Japanese Language Inspired Vision and Engagement Talk 2025」　（30 万円）
アメリカで日本語を学習している大学生・大学院生および中高生を対象にした日本語スピーチコンテストで今回 11 回目。全米から応募した学生 77 名から選ばれた参加者 15 名がプレゼンを行い、最優秀者は日本での夏期講習に参加できる航空券と生活費が贈られた。
開催時期：　2025 年 11 月 9 日
開催地：　ジョージワシントン大学にて対面形式開催
参加人員：　全米 10 州　応募高校生・大学生 77 名、大会当日プレゼンファイナリスト 15 名、
最終選考審査員 5 名、 運営委員 6 名、学生ボランティア 60 名、観客 160 名

23「33rd National Japan Bowl」　（40 万円）
全米各地で日本語を学んでいる高校生が、日本語能力のみならず日本の文化・習慣・歴史・地理・時事・日米関係など、幅広い分野について競い合うクイズボウルの全米大会。日本語学習を楽しみ、日本への関心をさらに高め、大学においても日本語学習を継続してもらうことが目的で、123 名の高校生が参加した。
開催時期：　2025 年 4 月 4 日～5 日
開催地：　Johns Hopkins School　Washington（米国）
参加人員：　米国 20 高校、43 チーム、123 名の高校生

24「ミャンマーの少数民族の方などを対象とした日本語学校」　(30 万円)

ミャンマーの少数民族の方などを対象とした日本語学校で、日本での就労を目指すミャンマー人の為、日本での即戦力となる人材育成と、ミャンマー国内における貧困削減の一助となることを目的に継続的に運営した。ミャンマー人生徒 20 名にヤンゴンで日本語を教育し、日本国内からも定期的に Zoom を通してオンラインで日本語教育を行った。

開催時期：　2025 年 4 月 13 日～2025 年 12 月 14 日

開催地：　ヤンゴン（ミャンマー）

参加人員：　日本５名、ミャンマー20 名　　計 25 名

25「タイビン地域における日本語学習者増加プロジェクト(2025 年度）」　(50 万円)

2016 年以来タイビン医療短期大学で留学・就職支援として日本語教育支援を実施してきた団体。「タイビン医療短期大学日本語センター」の活動として 2023 年度より 3 年間実施予定で今回が最終年度になる。ベトナムの地方都市タイビン地域で、小学生から社会人までを対象に、日本語を楽しく学びながら日本文化に触れ、将来の親日家を育成することを目指す。日本語教室や日本文化体験イベントとして浴衣体験を実施した。

開催時期：　2025 年 4 月 13 日～2025 年 12 月 14 日

開催地：　タイビン(ベトナム)

参加人員：　日本語学習受講登録者 241 名、日本文化体験イベント 70 名　計 311 名

26「ウクライナ学生支援会復興支援プロジェクト」　(100 万円)

2022 年 4 月から受け入れている 104 名のウクライナ避難学生に対する就職・進学・自立支援を継続中。2024 年 8 月からはウクライナ復興人材プログラムとして 2 期生 10 名を受け入れた。ウクライナ復興に向けデザイン思考プロジェクトを実施。又復興支援教育成果発表会兼企業交流会を実施。未来社会と復興をつなぐ学びのツアーとして万博ツアーを実施し、日本館、ウクライナ館等を見学した。12 月上旬には当財団役員が大阪に出張し、ウクライナ学生支援会の現状確認と支援学生との交流会に出席した。

開催時期：　2025 年 5 月～2026 年 3 月 31 日

開催地：　大阪、神戸

参加人員：　日本人現地参加者 76 名、ウクライナ 10 名　計 86 名

b．その他の事業

「その他の事業」として、次の 2 事業を行った。　　合計 195 万円

1.　財団ホームページの更新・運営　(43 万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2.「財団だより - 第 22 号」　の発行　(152 万円)

2025 年 11 月「財団だより - 第 22 号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、2024 年度の事業報告及び財団の活動の PR を行った。

［Ⅱ］ 管理・庶務事項

2025 年　4 月 1 日　2025 年度奨学生募集を開始

5 月 13 日～14 日,20 日 会計監査人による決算期末監査及び監査報告会

5 月 23 日　第 109 回選考委員会を紙上開催

・2025 年度奨学生を選考

6 月 4 日　第 118 回理事会を開催

・2024 年度事業報告書・決算報告書承認

・公益目的事業実施準備基金取崩承認

・2025 年度奨学生承認

・定時評議員会開催決議

・理事長・専務理事の職務執行状況報告

6 月 23 日　第 83 回評議員会・第 119 回理事会を同時開催

・任期満了に伴う理事・監事選任決議,評議員 1 名選任決議（評議員会）

・2024 年度事業及び決算を報告（評議員会）

・代表理事・業務執行理事選任決議（理事会）

6 月 25 日　2024 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出

9 月 19 日　「財団奨学生交流会」を開催

10 月 8 日　第 120 回臨時理事会を開催

・保有資産見直し審議及び承認

11 月 26 日　機関誌「財団だより-(第 22 号）)」を発行

11 月 1 日～12 月 18 日　2026 年度国際交流助成案件の申請受付

2026 年 1 月 13 日　第 121 回臨時理事会を紙上開催

・保有資産入れ替えを承認

2 月 12 日　第 110 回選考委員会を開催

・ 2026 年度助成案件を選考

3 月 3 日　あずさ監査法人による期中監査を実施

3 月 19 日　第 122 回理事会を開催

・2026 年度助成案件及び事業計画案を承認

・2025 年度決算見通し、2026 年度収支予算案を承認

・資産入れ替え（案）を承認

・任期満了に伴う選考委員選任決議

・理事長・専務理事の職務執行状況の報告

3 月 23 日　あずさ監査法人による理事者ディスカッションを実施

3 月 30 日　・2026 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以　上